

1. キャンパスマスタープラン策定の目的

1-1. キャンパスマスタープラン策定の目的

筑波技術大学では 2006 年にキャンパス整備計画が策定され、具体的な整備目標を掲げて施設の充実を図ってきたが、キャンパス全体の理想像を意識した計画ではなかった。

社会の変化や多様な要求・課題、ノーマライゼーションの進歩等に柔軟に対応できるキャンパス環境を持続・形成するためには、長期的な視点に立ったキャンパス全体の目指すべき目標を定める必要がある。

キャンパスマスタープラン 2015 では、保有する自然や資源など、今後も保存・維持し後世に継承すべき「変わらない方針」と、その時代のトレンドに基づき積極的に変化する「柔軟性のある計画」を明確にし、その基準を明らかにした「枠組み」=骨格を定めることを目的とする。

今後、中期目標・中期計画を更新するにあたり、キャンパスマスタープラン 2015 で示したキャンパスの骨格を元に、柔軟性のあるアクションプランを付加し実行していくものとする。

1-2. キャンパスマスタープラン策定の流れ

上位計画である教育理念・教育方針、経営戦略およびキャンパスの現状把握を踏まえつつ、長期的な視点に立った計画的な施設整備計画を策定する。

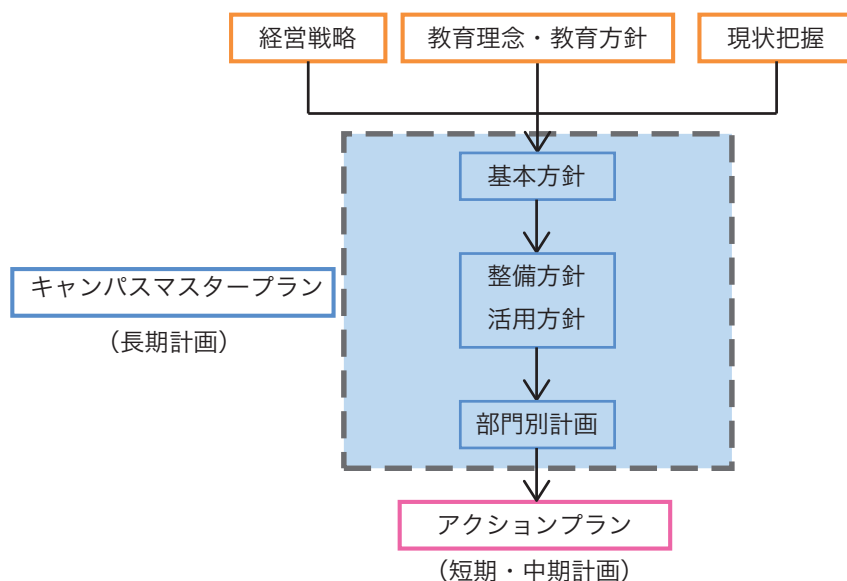


図 1-1 キャンパスマスタープラン策定の流れ

1-3. 教育理念・教育方針

筑波技術大学は下記の教育理念・教育方針を基本としている。

教育理念

筑波技術大学は聴覚・視覚障害者のための高等教育機関として、社会に貢献できる先駆的な人材の育成を教育的使命とする。この使命を果たすために幅広い教養と高い専門性を授ける教育を行う。

さらに、世界的な視点で聴覚・視覚障害者に対する高等教育の充実と発展に寄与することを期す。

教育方針

1. 主体的に考え、自立的に行動するための自己管理能力を育成する。
2. 論理的思考力と自己表現力に基づく対人コミュニケーション能力を育成する。
3. 幅広く豊かな教養を身につける教養教育と、高度な専門知識と技術を習得する専門教育を提供する。
4. 障害特性に合わせた情報保障および障害補償能力の育成により、「伝える・伝わる」教育を提供する。
5. 全てのカリキュラムを通じて協調性の涵養とリーダーシップの育成を図る。
6. 初年次から卒業年次までを見通した系統的なキャリア教育を提供する。
7. 自他の障害に対する深い理解を持ち、グローバルな視点から社会に貢献できる人材を育成する。

筑波技術大学

技術科学研究科

主として両障害学生への大学院教育

産業技術学部

聴覚障害学生に対する高等教育

保健科学部

視覚障害学生に対する高等教育

障害者高等教育研究支援センター

障害者の教育方法・障害補償システムの研究
開発と支援、基礎教育